



ご坊さんだより

2024年
8月

第58回 暁天講座

さる7月14日〜18日まで「第58回暁天講座」が行われました。期間中、大雨の日もございましたが毎日約百五十名の方が訪れ、共に聞法に励みました。当講座の実行委員長(別院輪番)は初日の開講挨拶にて、次の一句を詠みました。

老鶯に 法を聞けよと 導かれ

桑名別院輪番 長澤隆司

先日、菰野町の御在所岳に登った際、春の季語である鶯がよく鳴いていた。実は縄張りや繁殖期の主張で夏の方がよく鳴くそうです。「ほづをきけよ」と聴こえる「ホーホケキョ」という鳴き声は「仏法を聞く人になってほしい」とまるで背中を押してくれているように感じました。

そして、5日目の閉会の挨拶では、当講座実行委員である員辨暁氏より、「まずは本堂に足を運んで仏法を聴聞することが大切で、内容が理解できなくても、すぐに忘れてしまふとしても、この場にいるだけで大事なことなんだ」と暁天講座の内容を振り返りました。

当講座の開催にあたり、準備運営にご尽力いただきました方々には、厚く御礼を申し上げます。

【写真撮影・提供】当講座実行委員 員辨 暁氏(員弁組 圓光寺 住職)



以下 暁天講座(5日間)の講座内容(概要)をご紹介します。 (概要は編集担当の受け取りです)



石川県道因寺 住職
本山修練道場長

相馬 豊氏

58年という長い講座の歴史の中で、今は亡き方も含め、どれだけ多くの方がこの本堂に足を運び、人が生まれ、言葉を受け継ぎ、今日こうして合掌礼拝の音が響き渡る場所が開かれていることを実感しますと背中が震える思いです。

『歎異抄』に「われもひと、生死をはなれん」(生死を離れられない身を一人ひとりの生きている)という言葉があります。これは全人類の共通事項です。

そのことを、経済が優先される社会においてはいつの間にか忘れ、一日一日過おしてしまいます。社会に出て経験した観点を自分の価値観とし、また矢来(やらい)しながら、自分を飾りつけます。さらには長寿が当たり前となり、自分や大切な人も長寿である、という迷信を自分の中に作っているのではないのでしょうか。

しかしながら、人の一生は一瞬で、蓮如上人も御文(一帖目第11通)に、人の世は夢幻の間であると表現しています。自坊の門徒様の中に、末期がんの方がいらっしやいます。月忌参りで訪れる度に体調が一刻一刻と変化し、起き上がる力もなくなってしまう様子が。それでも別室のご自室からかすかな正信偈が

聞こえてきており、私はそれもいいなと思っていました。と同時に、この家族はまさに今、命の一瞬一瞬の輝きと悲しみに出遇われているのだと感じました。

人と生まれて

経済的富裕、健康的安楽、社会的立場を追い求めることを自分だとする私たちは、本来の人間の悲しみを忘れてしまっています。大切な人とお別れは、「悲しみ」に出遇い直していくということであり、同時に自分以外の誰かの「悲しみ」にも気づくということでしょう。

思いがけぬことが起きようと、事実を「お与えである」と引き受け、「悲しみ」と向き合うことで、同様の「悲しみ」を抱える他者との間にも、「共に」という世界が開かれていくのでしょうか。



個人の世界を生きてしまふ私たちが御本尊を前にして合掌をした時は、ひとつの世界に生きようとします。このひとつの世界を支えるのは、人間の悲しみの底に流れる、「人間であることの悲しみ」ではないのでしょうか。その願いが今日まで「南無阿弥陀仏」となって私たちに届けられているのです。



名古屋市 正林寺 坊守
同朋会館・真宗会館 教導

犬飼 祐三子氏

私の中には小さい頃から常に虚しさがありました。そして、その苦しみがないと仏法に出遇わせていただくことが出来なかったように思います。

父が教えてくれる仏法は、わかるようでわからない。わからないなりになんとなく大事なことなんだろうなどは漠然と感じつつ、お寺で育ってきました。

大人になり、私が体を壊してしまった時、友達から栄養士の先生を紹介していただきました。色々なサポートをしていただく中、先生に「今あなたがしたいことは何ですか？」と聞かれました。私の口からは、「真宗の教えを学びたいです」という言葉がスッと出てきました。ですが、「家族に反対されそうで出来ない」とその後付け足しました。しかし、先生は「絶対に今すぐ始めた方がいい」と仰られ、そこで真宗の教えを学びに行く決心ができました。

学校へ通う様になりましたが、私はどうやら自分に都合の良い教えを聞くこととしていたようです。何人かの先生に、「それは違うよ」と言っていたいただきました。でもなかなか、それまでに作り上げた自分を手放したくない。どうにか私の

まま教えを取り入れようとしていましたら、「自分の中にこんな大きな仏法が入るわけじゃないですか」というお言葉をいただきました。それはこれまでの私の在り方が根底から覆されるようなお言葉でした。

私は、自分の教養のために仏法を聞いていたようです。これまで父に仏法を教わってもなんとなくわからなかったのは、「自分のこと」として聞けていなかったからでしょう。人間は、恵まれているときには仏法を求めません。ですが、都合の良さから離れ、言葉が響いたとき、その言葉が命になります。

煩惱の中にひびく教え

苦しいということがわかると、光に向かって念仏申し、仏様からの呼びかけを聴くことができます。皆さまそれぞれが自分の苦悩に向き合っていたとき、念仏の中に光を見出されることを願います。



群馬県 覺應寺 住職
元プロ野球 審判員

佐々木 昌信氏

お寺の長男として育ちましたが、プロ野球の審判を29年間勤めましたので、住職となってはまだ3年半、わからないことだらけで、気づきの連続です。

好きこそものの上手なれ

審判員になった頃、2人の大先輩から「審判は野球が好きではなく愛すくらいでないとできないこと」、「最後は人間性（人間力）であること」の2つを伝えられました。辞めた今、そのことがなんとなく分かります。審判員での様々な経験が良いものも悪いものも今につながる良き縁だったなと感じています。

みなさんは、仏法の学び、親鸞聖人の教え、好きで今日いらっしやっていますか？真宗の学びははつきりしない。大谷大学の学生時代、どんな回答にも先生は善し悪しを言ってくれない。正解が分からずとても好きにはなれませんでした。

現在自坊では月に一度、聞法会を開き、東京から講師の先生をお呼びして、その後みんなでお酒を飲みながら座談会をしています。そこで「話が難しくてわからない」ということを門徒さまが発

言すると、「分かるように話してない。だいたい自分も分かっているから。分かりやすかったら今日で終わっちゃおう。聞法会に学びに来てはダメだって。眠りや寝ればいいし、とりあえず居ればいいんだよ。」と先生は仰る。そんな言葉に救われてなのか、「居ろというから来たぞ」とか「寝に来たよ」といって毎回参加してくれる人も出始めました。



キャッチャー以外の方で私を名前で呼んでくれる方は大谷翔平選手と松井秀喜選手くらいでした。ピッチャーへ球を投げるのがつらくなっていた頃、大谷選手が向かってきて、「佐々木さん、投げるのがつらいんじゃないですか？」とわざわざ球を取りに来られました。審判の気遣いまで出来る人間性。この人間性を現在のプロ野球界も重視しています。

では必要な人間力はなにか。まず人の話を聞け。思ったことを話せ。今の自分を受け入れろ。この三大原則です。なんだか仏教と通じるものがある。初心者住職。畑違いな仕事と置いていたけど、少し心が楽になって向き合えています。



三橋尚伸氏

お釈迦様は一切皆苦(この世はすべて苦しみ)と言われました。苦しい状況が一瞬で訪れる世界に生きていることを思えば、上手いこと生きている時の「この世は楽だな」という感情は妄想を生きていると言えます。

きつと皆さんは、「このままの生き方ではまずいのではないか」と、この仏法を聞く場「このあえず体を持ってくる」という大業をなされたのだと思います。さて命は私のものでしょうか？

「授かるもの」「いただきもの」と表現することで私物化していませんか。終える時も終え方も自分で決められないのですから、ほんの一瞬の「預かりもの」で、いずれお返しするものでしょう。



心臓移植について、国が死の基準を定めるということがありました。心臓移植は仏教でいう布施だとする声もありました。生きている人間からしか取れない臓器を移植して、そのために人を殺す。

布施はそんなに簡単なものではないです。両者に欲が介在していないことを条件とするのが布施です。これをきちんと考えるというのが仏教の教えです。

人と生まれた事に 苦しむ人々と共に

なぜ仏教では生まれたことを苦しむとするのか。ひとは生まれたことを喜ばない人が居るからです。大きな事件や自殺の多くが、自分や家族の誕生日前後に起こります。ただし、闇を持ちながらも生きていられた人もいます。条件付きの許し(ゆるし)ではない、赦し(ゆるし)を与える存在、理解者が居た場合です。

この赦しを体現しているのが阿彌陀仏です。そのご縁をいただけるかは「間に立つ人」が重要です。皆さんにおいては先祖がもしません。歳をとっても私たちはやる事が残っているわけですね。阿彌陀仏さん有難いで終わっちゃ飾りになっちゃう。生きて働かせなければ。

しかし、それでも苦しい人はいます。ならば生きる意味は考えなくていい。ただ赦された命を生きてほしいです。『二河白道』の物語において、私たちはお釈迦様から尊敬を持って呼ばれ、阿彌陀仏からは愛情を持って呼ばれます。

「ありがたい」と命を返せるように生きようではないですか。



太田宣承氏

「一人十色」、「十人一色」という私の作った言葉があります。「十人一色」は、同じ方を向いて団結をしたり、日本人や被災者、男性や女性、認知症といったように人をカテゴリー化するイメージ。時として善し悪しある考えです。今日は「一人十色」の話をします。

一人十色の生死観

一人の人生の中に、様々な色がありますか？子供の頃に持っていた色が、思春期になり変化していく。出会いにより心の色が変化したり、一人ひとりの中には沢山の色があるということなのです。



私の両親はどちらもお寺の跡継ぎとして育ち、非常に仲が良く、大変おらかな二人でした。しかし、父は48歳で亡くなり、父を仏様のようにだと心の支えにしていた母はうつ病となり、感情のコントロールが効かなくなりました。母は家を出る決断をし、その後15年経ち、久し

ぶりに会ったとき、「私の上だけが嵐なわけではないこと」、「本当は父の後ろにあったであろう教えに自身が早く出遇うべきで、父の死はそれを教えてくれる導きだったのかなということ」を話してくれました。

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。 『歎異抄』後序より

この「一人」が母となった瞬間でした。 教えを聴くということは、心のブレーキになります。自分自身で苦しんでいることを教えてくれます。我々は他力という下支えの上に、自力ができるのです。 つい人は「Do(行動)」が出来ないと価値がないと考えてしまいます。それは苦しい。おばあちゃんの家介護は大変でした。でも一度入院になった際、2才の息子が「おばあちゃんいないとさみしいね」と言いました。驚きました。息子は「Be(存在)」で見ているのです。

どんな方からでも、学ぶことが無いわけではありません。時に短所が長所になったり、善が悪になったりすることがあります。歳を重ねると、見方や見え方も変わっていく。気づけば自分自身の様々な色が他人の色を変え、また自分も変わっていく。その中ではじめて出遇えることもあるのでしよう。



8月の行事予定



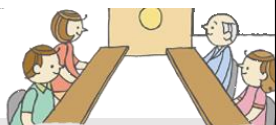
法話(又は講演)のご案内



◇ 人生講座 会費 500 円
 8月4日(日) 7:00 ~ 8:00
 講師 **大橋 宏雄氏**
 (鈴鹿市 浄願寺 住職)

※毎月第一日曜日開講。
 9月1日(日) 講師 瀬木 信弥氏(いなべ市 了圓寺 住職)

◇ 同朋の会【正信偈のことばにふれる⑤】
 8月9日(金) 13:00~15:00 会費 500 円
 講師 **長澤 隆司**
 (桑名別院 輪番)



※毎月第一金曜日開講。
 ※ 次回 9月6日(金) 午後1時~3時

◇ 桑名別院法話のつどい
 8月13日(火) 13:00~15:00
 講師 **星川 佳信氏**
 (菰野町 大圓寺 住職)



◇ 桑名別院法話のつどい
 8月28日(水) 13:00~15:00
 講師 **山田 恵潤氏**
 (多度町 願琳寺 住職)



◇ 晨朝法話
 毎朝 7:00 からの勤行後
 法話 別院列座(13日、28日の御命日は輪番)



法要(お勤め)のご案内



◇ 晨朝(おあさじ) 毎日 7:00~
 ◇ 祥月経 毎日 9:00~
 毎月 13、28日は13:00~、31日は前日に兼ねます。
 加えて今月は、6日、12日は前日に兼ねます。

他の時間に祥月経をご希望の方、
 または年忌等、各種お参りをご希望の方は
 寺務所までお問い合わせください。

◇ お夕事 毎日 16:00~
 ◇ 御命日のお参り
 先門首 13日 / 親鸞聖人 28日
 前日: 13:00より速夜
 御命日: 7:00より晨朝、9:00より日中



◆ 墓地総経
 8月13日(火) 13:00~(祥月経兼ねる)

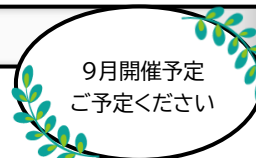
本堂にて、境内墓地の総経をお勤めいたします。
 ぜひとも、お盆のお墓参りと併せてお参りください。



◇ 御歴代御正当
 8月13日(火) 證如上人 第10代
 前日: 先門首速夜と兼ね、13:00より速夜
 御命日: 先門首の御命日晨朝、日中と兼ねる



今後の予定



◎ 仏具のおみがき 場所: 本堂
 9月5日(木) 8:30~
 汚れても大丈夫な服装でお願いします。(道具は別院にあります)

◎ 清掃奉仕(桑名別院婦人会)
 9月11日(水) 9:00~ 本堂前集合
 堂内の清掃、境内の草刈り等。持ち物は自由です。

◎ 秋季彼岸会について
 9月19日(木) 9:00 初日中 13:00 総経
 20日(金) 13:00 総経
 21日(土) 13:00 総経
 その後 法話 講師 高木 彩氏(四日市市 信光寺)
 22日(日) 9:00 中日中 13:00 総経
 その後 法話 講師 本多 益氏(いなべ市 光明寺)
 23日(月) 13:00 総経
 その後 法話 講師 岡田 寛樹氏(多度町 立勝寺)
 24日(火) 13:00 総経
 25日(水) 9:00 結願日中 13:00 総経



お知らせ



◎ 別院事務所お休みについて
 8月13日(火)~16日(金)まで別院寺務手続きは
 お休みとさせていただきます。



◆ 仏華講習会(場所: 桑名別院本堂にて)
 桑名別院本堂の内陣荘厳をお手伝いいただくかたちで
 桑名別院「仏華講習会」を下記の通り開講いたします。
 たくさんのご参加をお待ちしております。

【第1回】9月17日(火) 9:00~17:00

応募方法や持ち物など、
 詳しくはホームページをご覧ください。



真宗大谷派(東本願寺)
桑名別院 本統寺

〒511-0073 三重県桑名市北寺町47番地
 寺務所 平日 9:00~17:00
 TEL (0594)-22-0652 FAX (0594)-22-0681
 メール kuwanabetsuin@gmail.com

